

2023年12月10日 月曜朝会

皆さん、おはようございます。サードステージも残すところあと10日となりました。先週は、師走について話しましたが、12月は何となく慌ただしく過ぎていく感じがあり、気が付くとお正月まであと3週間となってきました。一年の納の月ですから、きちんとし終えるようにやり残したことがあったら取り組みましょう。



さて、そんな忙しい師走ですが、最近、皆さんは空を見ることがありましたか？一年のうちで、秋に続き空がとっても高いと感じたことはないでしょうか。空の高さは、一年を通じて同じ高さです。

では、どうして高いと感じるのでしょう。考えたことがありますか。

それは、春から夏になると空気中の湿度が高くなり、蒸し暑い気候になりますね。空の上でも同じように水分を含んだ空気のせいで霞んで見えるのですね。地上から見るとその薄くかすんだ状態が空を低く見せているのです。

反対に気温が下がってくる秋から冬になると、空気が乾燥して空気中の水分が少なくなることから透明度が高くなり、地上からは空が高くなったように見えるのです。空気の湿度により透明度が変わって高く見えたり低く見えたりする錯覚だとも言えます。

また、空にある雲の種類によっても空の高さの違いを感じることもあるようです。夏などに低いところにあった入道雲などとは違い、秋や冬の雲は、空の高いところにできるものが多く、青空の見える範囲が広くなり、より一層空が高く見えるのだという事です。はけで掃いたような筋状の雲などがそうですね。

しかし、これも地域によっては違いがあるのです。私たちが生活している太平洋側では、冬は乾燥し雲ができにくいために空は青く、高く見えるのですが、日本海側では大陸から来る水分を多く含んで雪を降らすような雲が多くなり、空が高くみられる日が少なくなっています。

冬休みに、遠くに出かけることもあるでしょう。そうしたら空や雲を見て、その土地の形や気候などに関心を持ってみるのもいいですね。新しい発見があるかもしれません。

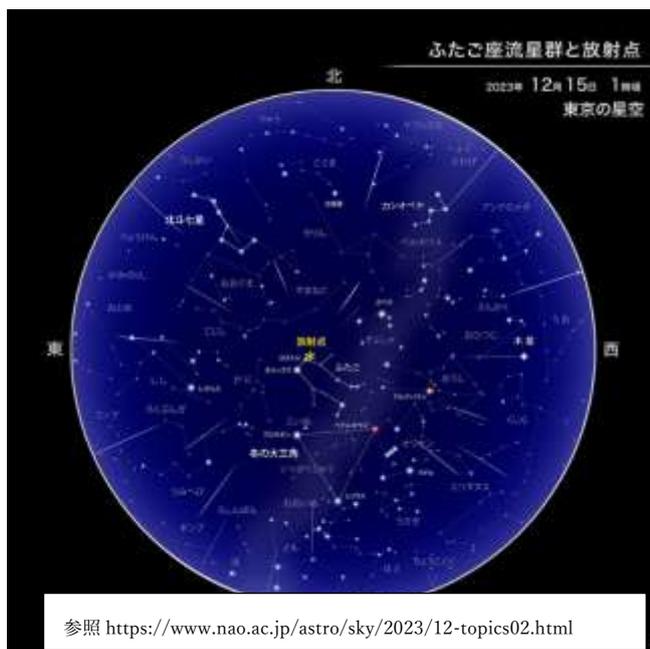
今日は冬の空の話をしました。もう一つ、この冬だからこそ見られるものも紹介しましょう。それは、星空です。

冬の空は空気が澄んでいるため、沢山の星が見えますね。

星座の観察には最高の季節となってきたわけです。宇宙に関心のある人にとっては一年で最高の季節が来たわけです。

冬の大三角と言われる、どれも1等星と呼ばれる明るい星ですので、ぜひみんなで探してみてください。

そしてメインは、三大流星群の一つ、ふたご座流星群の最大のピークが、12月14日の夜から15日の明け方にかけてやってきます。13日が新月ですので、月明かりにも邪魔されず、天気が良ければ最高の条件で沢山の流れ星、流星群が見られるとのこと。ふたご座流星群は、ふたご座方面から放射状に広がる形で飛び出してくるそうなので、チャンスがあれば楽しんでください。14日の9時頃には一時間で30個を超える流れ星が見られるとの予想です。この日を逃しても、前後の数日間は多くの流れ星が見られることでしょう。



但し、冬の星の観察は大変寒いですから、お家の人に相談してからにしてください。

では、何かと忙しい12月です、目の前のことに振りまわされることが無いように、一つ一つ丁寧に取り組んでいく事が大切です。

そして、時には少し空を見たり、星を眺めたり、冬のこの時期でしか味わえないこともしていきましょう。

特に6年生は、受験への追い込みの時期です。勉強の合間には少しリラックスして、また取り組めるように自分をコントロールして頑張ってください。